



かけはし



第3次地域福祉活動計画策定に向けて

～地域の声よ集まれ～

地域座談会のご報告

くわしくは・・・
▶▶▶P3～6へ

発行

社会福祉法人
笛吹市社会福祉協議会

住所 / 〒406-0822 笛吹市八代町南 917
電話 / 055-265-5182 FAX / 055-265-5183

広報「かけはし」には、赤い羽根共同募金の配分金が活用されています。

発行責任者：社会福祉法人 笛吹市社会福祉協議会 会長 早河正弘



～ 目次 ～

- P2 ▶▶ ● 『第9回笛吹市社会福祉大会』開催のご案内
- P3 ~ P6 ▶▶ ● **特集** 第3次地域福祉活動計画策定に向けて
～地域の声よ集まれ～地域座談会のご報告
- P7 ▶▶ ● 一宮地区複合的福祉サービス拠点建設事業について
● 善意の寄付・寄贈の御礼
- P8 ▶▶ ● 「ふえふき通信」

笛吹市社会福祉大会



支え合う地域づくりの 実現を目指して

～いま、動きだそう～

【日時】
平成29年
2月12日(日)
13時～16時

【会場】
笛吹市スコレーセンター
〒406-0035 山梨県笛吹市石和町広瀬 626-1

私たち笛吹市民は子どもから高齢者までが豊かに暮らせる地域をつくることを目指しています。笛吹市で平成29年3月から始まる新しい介護予防事業では、高齢者が地域での生活を続けるために、専門的サービスに加え、高齢者を含む地域住民が主体的に「互いに支え合う」ことにより生活の支援ができる地域づくりが求められています。

この「支え合う地域づくり」の実現を目指して、第9回笛吹市社会福祉大会を開催いたします。

第1部では、笛吹市の社会福祉の発展に貢献された方々や今後の福祉活動が期待される方々への顕彰を行います。

第2部では、行政、福祉事業者、住民活動の代表者の実践から、私たち一人ひとりが地域で生活する一員として、今後の支え合う地域づくりへの取り組みについて話し合います。

- 事前の申込みがなくても参加できます。
- 手話通訳・託児サービスがあります。

第1部
記念式典
表彰状授与・感謝状贈呈

第2部
基調講演・シンポジウム
『支え合う地域づくりの実現を目指して
～いま、動きだそう～』



講師・コーディネーター
市川 一宏 氏
ルーテル学院大学
大学院研究科長
学事顧問・教授

シンポジスト



戸島 義人 氏
社会福祉法人
寿ノ家
理事長



米山 昭美 氏
一宮町生活支援
ボランティアの会
地域リーダー



赤尾 好彦 氏
笛吹市
長寿介護課
課長



小林 絵那 氏
笛吹市
社会福祉協議会
地域福祉課

【お問合せ先】 第9回 笛吹市社会福祉大会 実行委員会（事務局 笛吹市社会福祉協議会）
〒406-0822 笛吹市八代町南 917 TEL：055-265-5182 / FAX：055-265-5183

主催：社会福祉法人 笛吹市社会福祉協議会

協賛：山梨県社会福祉協議会、笛吹市、山梨県共同募金会、笛吹市議会、山梨県社会福祉士会、笛吹市医師会、山梨県精神保健福祉士協会、山梨県介護支援専門員協会、山梨県介護福祉士会、山梨県看護協会、山梨県医療社会事業協会、山梨県ボランティア協会、笛吹市連合区長会、笛吹市民生委員児童委員協議会、笛吹市介護保険事業者連絡会、笛吹市障害者団体連絡協議会、笛吹市ボランティア連絡会、笛吹市老人クラブ連合会、笛吹市観光物産連盟、笛吹ライオンズクラブ、笛吹ロータリークラブ、笛吹市シルバー人材センター、笛吹市体育協会、笛吹市ゴルフ連盟、笛吹青年会議所、山梨県立大学、健康科学大学、帝京福祉専門学校、優和福祉専門学校、甲斐清和高等学校、笛吹高等学校、山梨日日新聞社・山梨放送、NHK甲府放送局、朝日新聞甲府総局、毎日新聞甲府支局、テレビ山梨、エフエム富士（順不同）

協会の役割



安心して暮らせる
幸せあふれる
まちづくり

- 地域づくり
- 福祉教育
- 災害対応
- 相談

第3次地域福祉活動計画策定に向けて ～地域の声よ集まれ～ 地域座談会のご報告



地域福祉活動計画とは

皆さんは「地域福祉活動計画」という言葉を耳にしたことがあるでしょうか？

「初めて聞いたー」という方や、「言葉自体は聞いたことがあるけれど、内容はよく分からない。」という方が多いのではないかと思います。普段聞き慣れない言葉で、少し難しい印象を受けるかもしれません。

『地域福祉活動計画』は、地域住民が主体となり、社協とともにその知恵・労力・お金を出し合い協力しながら、互いにふれあい支え合っていく「幸せあふれるまちづくり」を目指し活動していくための計画です。

地域福祉活動計画は、笛吹市の地域福祉計画（法律を背景に行政の責任で整備すべき施策を中心にとまとめたもの）と連動し、地域の暮らしを支えています。

こんなまちであつたらいいな
安心して暮らせる
幸せあふれるまちづくり

これが、笛吹社協の『第2次地域福祉活動計画』のスローガンです。

第2次地域福祉活動計画は、平成24年度から平成28年度までの5年間の『地域（笛吹市）』の『福祉（ふだんのくらしのしあわせ）』の『活動』をするための『計画』であり、笛吹社協はまさに今この瞬間も、この計画に沿って活動しています。

第2次地域福祉活動計画は今年度で5年の期間が満了します。そこで、笛吹社協では、平成29年度からの5年間を計画期間とする『第3次地域福祉活動計画』の策定を進めています。

「第3次地域福祉活動計画」の策定委員を下記の方々に委嘱させていただきました。（役職は2016年6月14日現在）

- 笛吹市議会教育厚生常任委員会委員長 中村 正彦
- 笛吹市保健福祉部部長 風間 齊
- 笛吹市連合区長会会長 落合 俊美
- 笛吹市民生委員・児童委員協議会会長 雨宮 美枝子
- 笛吹市ボランティア連絡会会長 芦澤 義男
- 笛吹市老人クラブ連合会会長 風間 義男
- KORENふえふき代表 星 合 深 妃
- 笛吹市障害者団体連絡協議会会長 羽田 哲也
- 一般市民 志村 直毅
- 一般市民 田草川 睦美
- 一般市民 橋田 尚
- 一般市民 林 信治
- 笛吹市社会福祉協議会常務理事 市川 一宏
- 学識経験者 ルーテル学院大学 大学院研究科長 学事顧問・教授 (敬称略)

第一回・第二回策定委員会

第一回の策定委員会では地域住民等に行ったアンケートについて策定委員の皆様と共有し日頃感じている地域の様子や問題など、様々なご意見をいただきました。

第二回の策定委員会では特別アドバイザーである市川一宏先生から「地域福祉活動計画は社協が福祉の向上にどのように貢献すべきかを模索し住民の視点から組み立てた計画を目指したもの」とアドバイザーの皆様と意見交換を行いました。

そして、住民の生の声を集める座談会を開催することになりました。7町の『住民の声』と『住民の思い』を紹介させていただきます。



石和



- ・温泉施設がたくさんある。
- ・大きいお店が沢山ある。
- ・病院も多い。
- ・駅や高速バス停がある。
- ・子どもたちが元気に挨拶をする。
- ・観光地でイベントが多い。
- ・元気な高齢者が多い。
- ・農業以外に色々な産業がある。

- ・身近な個人商店が少ない。
- ・空き家が増えている。
- ・若い人の自治会への加入が減少。
- ・道路に街灯が少ない。
- ・表札がない家も多い。
- ・地域の活動に参加しない人が増えている。
- ・地域の情報が入手しづらい。




7町の住民が地域の『いいところ』『困ったところ・気になるところ』そして『自分にできそうなこと』『地域の人との支えあいによってできそうなこと』のアイデアを出しました!



4

次に、ブルーの付箋に町の『困っているところ』『気になっているところ』を思いつく限り書く。(10分)



3

ピンクの付箋に町の『いいところ』を思いつく限り書く。(10分)

人がやさしい
他には・・・



2

自己紹介。グループ名を決める。(5分)

よろしくお願いたします。



1

地域福祉活動計画と町の活動実践について説明。(20分)

まずは地域のことを知っていただきます



境川



- ・寺尾分校のさくらがすばらしい。
- ・南甲府ICに近く、交通アクセスが良い。
- ・温泉や公園など交流施設が作られる。
- ・夜景がきれい。
- ・全戸の住民がだいたいわかる。

- ・3地区のつながりがない。
- ・人口減少と高齢化、未婚者も増えている。
- ・農業の衰退による自然環境の変化。
- ・学校、保育園が遠い。(スクールバス対応)
- ・昼間、老人しかいない。
- ・近くにお店がない。
- ・公共交通機関がない。ぐるりバスだけでは不便。



八代



- ・人と人、近所、地域のつながりやまとまりがある。
- ・交流する機会や行事がたくさんある。
- ・高齢者が元気でよく移ぐ。
- ・ボランティアの活動が盛んである。
- ・リニア実験線が見られる。
- ・スマートインターができる。
- ・大きな公園がある。

- ・空き家や休耕地が増えてきている。
- ・若い人の働く場所が少ない。
- ・少子高齢化になっている。また一人暮らしが多くなってきた。
- ・新住民との交流がない。
- ・地区行事が縮小化している。
- ・小児科がない、大きな病院がない。
- ・交通量の増加や道路が狭い。
- ・公共交通の便が悪い。



一宮



- ・ 桃の花は見事に美しい。
- ・ 夏にホテルが見られる。
- ・ 地域のつながりがある。
- ・ 心の優しい人が多い。
- ・ ボランティア活動が活発的。
- ・ 子どもたちがみんな素直。
- ・ 桃の里温泉がある。
- ・ 買い物しやすい。
- ・ 介護施設がある。
- ・ 史跡が多い。(お寺、仏像)
- ・ 町内を巡回バスが通っている。
- ・ 交通の便が割と良い。

- ・ 桃、ブドウの収穫時に多忙で観光客 対応不十分。
- ・ 「いちのみや」町の名称が市からどんどん消えていく。
- ・ 地域交流が少なくなっていく。
- ・ 空き家が増えている。
- ・ 通学路に歩道がない。
- ・ 学童が学校から遠い。
- ・ 公園等の子供やお年寄りのいこいの場が少ない。
- ・ 巡回バスはあるが利用しにくい。
- ・ 買い物に困る年寄りが多い。



御坂



- ・ 南アルプスが良く見える。
- ・ スキー場がある。
- ・ 買い物しやすい。
- ・ 路線バスが走っている。
- ・ 県立博物館がある。
- ・ 隣近所の付き合いがある。
- ・ リニアが通っている。
- ・ 近所の人が作物をくれる。
- ・ 声をかけてくれる人が多い。
- ・ 公民館活動活発。

- ・ 留守宅が多い。
- ・ 空き家が多い。
- ・ 桃畑がなくなっていく。(春の景色が変わってきた)
- ・ 大きい病院がない。
- ・ 子どもたちと挨拶しづらい。
- ・ 道が急、坂道が多い。
- ・ 子供が少ない。
- ・ 衣料品店が少ない。
- ・ 子供を本気で叱る人がいない。



6

グリーンの付箋に『自分にできそうなこと』『地域の人の支えあいによってできそうなこと』を思いつく限り書く。

おいさつをしよう



地域の行事に参加しよう!

5

司会と発表者を決める。町の『いいところ』『困っているところ』『気になっているところ』を似ているもの同士にまとめ、表題をつける。(15分)



似ている内容はまとめましょう。



少子高齢化に
それから・・・

芦川



- ・ すばらしい自然。
- ・ ボランティア活動が盛ん。
- ・ 3月めしなどイベントが楽しい。
- ・ 近所とのつながりが深い。
- ・ 年寄りが元氣。
- ・ 意外に都心に近い。
- ・ 移動販売者が地域をまわっている。

- ・ 土砂崩れが怖い。
- ・ 閉鎖的なところがある。
- ・ 移住者との交流がない。
- ・ 若者が働く場所がない。
- ・ 子ども、若者が少ない。
- ・ 空き家が多い。
- ・ 病院が遠い。
- ・ 買い物不便。
- ・ 道が狭くこわい。
- ・ 雨量、雪量で道が閉鎖される。
- ・ 学童保育、中学校がない。



春日居



- ・ 人・サロンが活発だ。
- ・ ボランティア活動や行事が活発だ。
- ・ 地域のつながりがある。
- ・ 伝統的な行事が連綿と続いている。
- ・ 見守りたいがある。(子どもの安全が守られている)
- ・ 老人クラブの加入率が市内でNo.1。

- ・ ゴミ捨てのルールや犬の散歩のマナーが悪い人がいる。
- ・ サロンの参加者減少、固定化。
- ・ ボランティアメンバーの高齢化、固定化。
- ・ 前向きに役員になる人がいない。
- ・ 異世代の交流の機会が少ない。
- ・ 公園、子どもが安全に遊べる場所がほしい。





一宮

- ・地域のよさを発信。
- ・SNSの活用いろんな人へ情報を流す!
- ・地域の事に関心を持って協力、参加。
- ・畑の活用方法について農家、地域の人と話し合う。
- ・地域管で子育て参加。
- ・高齢者や子育てママとの交流! 皆で集まって楽しく語る。
- ・地域ぐるみのあいさつ運動を推進する。

- ・農業を続けていく。
- ・健康でいること。
- ・行事に参加する。
- ・近所との付き合いをする。
- ・家庭菜園として農地を住民に解放する。
- ・いきいきサロンに参加する。
- ・ボランティア活動に誘う。
- ・困ったことの相談にのる。

御坂



石和

- ・休耕地を借りて野菜を作る。
- ・地域の行事に積極的に参加する。
- ・趣味を生かして仲間作り。
- ・散歩のついでにごみ拾いをする。
- ・通学路で子どもたちに挨拶をする。
- ・地区の行事を隣近所で誘って参加。
- ・近所に野菜や果物を配る。

- ・人とのつながりは声かけから! 大人同士も挨拶を活発にする。
- ・ボランティアの積極的参加。
- ・八代のよさを自慢しよう。広げよう。情報発信。(再発見マップ 掲示物) ⇒移住促進。
- ・高齢者への支援をしよう。(ゴミ出し、話し相手)
- ・環境美化活動の推進。
- ・資源の活用。(エコBOX 空き地 空き家)
- ・公民館活動のメニューの検討、地区の行事に積極的に参加。

八代



発表

8

作った模造紙に
(⑤と⑥の2枚)に沿って
グルーブごとに
発表。

7

はじめに何から取り
組めそうか具体案を
発表に向けてグルー
プでまとめる。(10分)

- ・近所見守り、声かけ、安否確認をする。
- ・近所の人の買い物ごみだし、雪かきを手伝う。
- ・イベントを企画参加する。
- ・農業等の後継者の育成。
- ・移住定住の条件を整える。(空家、相談窓口、情報発信)
- ・子育て支援、山村留学など市に働きかける。

芦川



春日居

- ・地域行事には積極的に参加し、地域の人をもっとよく知る。
- ・地域みんなであいさつをする。(まずは家庭から)
- ・見守りたいのたすきを常時かけ、集団登下校の見守りを実施する。
- ・自分にできるボランティアをする。
- ・本を読む子を育てる。(豊かな心を育てるために)



境川

- ・買い物を頼んだり、頼まれる関係づくり。
- ・気軽に声を掛け合い、車に乗せてあげる。
- ・神社等の環境美化活動をする。
- ・地域で見守る人を増やす、声掛けをする。
- ・新年会や忘年会を誘い合って続けていく。
- ・災害時の組単位での助け合い。

※地域ごとに出た内容の一部を掲載いたしました。

✦座談会を終えて✦

笛吹市役所の多くの職員の方もいち住民として参加していただきました。



福祉総務課 飯島さん

市民の皆様
『地域愛』に感激しました!一人ひとりが地域のことを真剣に考えている様子がひしひしと伝わってきました座談会でした。



長寿介護課 有賀さん

「誰もが安心して住める笛吹市」に向けて、パーツが揃ってきました。次は、みんなで組み立てる作業だね。

✦これから✦

座談会で、皆様から聞かせていただいた声は、地域福祉推進委員会で、各町の活動計画としてまとめ、住民の皆様と共に、具体的に取り組んでいきます。また、笛吹市全体の活動計画策定の基礎資料とさせていただきます。

7つの町の特徴は、それぞれに異なりますが、「自分の住む町を良くしたい」と願う住民の皆様熱い思いは、同じです。その思いこそが、「幸せあふれるまちづくり」を実現させていく原動力となります。社協も、住民の皆様思いをしっかりと受け止めさせていただき、これから一緒に地域づくりに臨んでいきます。よろしくお願ひします。

笛吹市社会福祉協議会事務局次長 古屋まゆみ